

成長につなぐ — 事例17ゴールズ&169ターゲット

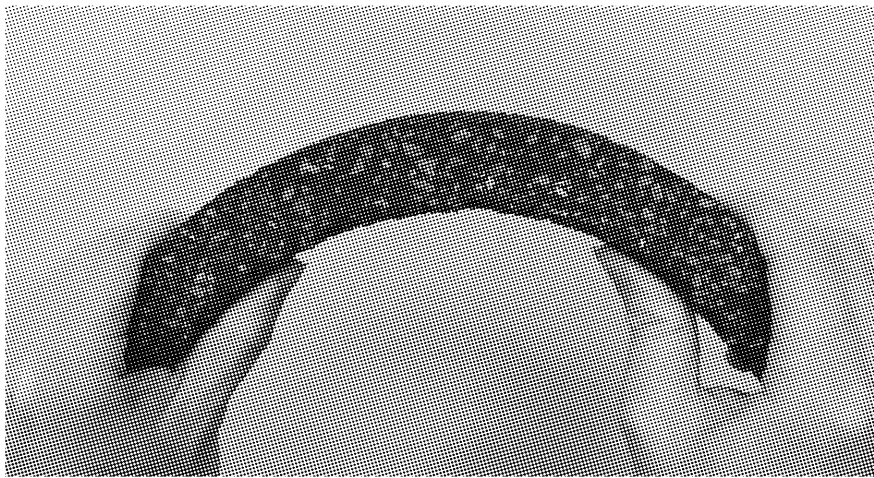
156

ニチレキ

ニチレキは道路舗装材料の製造・販売や施工を手がけ、改質アスファルトやアスファルト乳剤の国内シェアで首位に立つ。気候変動対策に重点を置き、二酸化炭素(CO₂)

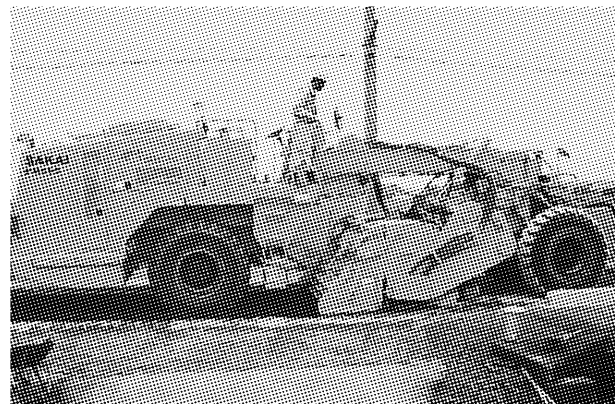
②の排出量削減や道路の長寿命化に寄与する製品・工法の開発で、強い存在感を放っている。

代表格の改質アスファルト「スーパーシナヤカフアルト」は大きな荷重に耐えられる頑丈さと、手で曲げられるしなやかさを併せ持ち、ひび割れやわだち掘れといった損傷に強いため、



工事の頻度を半減できる。しかも骨材などを加えた混合物の製造に必要な温度を低く設定でき、混合物の製造段階だけでCO₂を2割減らせる。傷んだ舗装をその場で再生できる「スタビセメントRC」

舗装材料でCO₂排出削減に貢献



「スタビセメントRC工法」では、傷んだ舗装をその場で取り壊して再生利用できる

舗装材料の開発に力を注いだ。59年には皮膜の形成が速いカチオン系アスファルト乳剤の開発に、日本で初めて成功。同社はこれ以降、「環境変化を敏感に捉え、その時々に必要なとされる技術を生み出すこと」で、絶えず新しい仕事を創造してきた(小幡学社長)。

工法」と組み合わせれば、CO₂の発生量を50年単位の比較で5割減らせる。

原点は創業者の池田英一氏が唱え、企業理念ともなった「種を播き、水をやり、花を咲かせて実らせる」の精神にある。たゆみない努力で絶えず新しい仕事を創造してこそ、豊かな実りを手にできると説いたものだ。

同社が建物の防水工事に続いて1940年代半ばに始めた道路舗装工事の仕事が軌道に乗ると、池田氏は工期の短縮が大きな社会貢献になるとして、作業効率を改善できる

この理念を「愚直に実行する」(同)として今では全従業員1割に上る人員と、連結営業利益の1割相当の資金を、研究開発に振り向けている。公共性が高い道路舗装事業の担い手として、汎用品の取り扱いが欠かせない中でも、22年度は環境などに配慮した高付加価値品の貢献で、アスファルト応用製品事業の営業利益率が10割余り押し上げられたと推計。収益性のさらなる向上を狙い、環境配慮型製品・工法の売上比率を、20年度の12%強から5年で30%以上に高める考えだ。